

《個人インセンティブの取組》事業計画・事業評価のための標準的なテンプレート

本テンプレートは、個別事業の優劣を判定するためではなく、事業効果を高めるための工夫を明文化し、各保険者における事業の改善につなげることを目的に示すものである。あわせて、全国での知見を蓄積・抽出し、共有を通じた横展開への活用も期待される。

I. 事業の概要

事業名：

実施主体：

実施期間：

対象者：

事業の目的：

※健保であればコラボヘルス・ウェルビーイング経営、市町村国保であれば地域づくり・地域貢献などの多様な観点も含め、他部署・関係者等と協働しながら事業設計できるとよいでしょう。また、生活習慣病の予防の観点だけでなく、ライフステージに合わせた健康支援、性差に応じた健康課題への対応、高齢者における介護予防や自立支援などの観点で個人インセンティブの取組を活用することも考えられます。

インセンティブの目的・内容：
【第0段階】ヘルスリテラシーの形成（基盤整備）

【第1段階】参加のきっかけづくり

【第2段階】継続的な健康づくり（行動の定着）

【第3段階】行動変容（健康指標に係る成果）

※事業設計時に評価方法もあらかじめ検討。

II. 事業の評価方法					III. 事業の評価結果（〇年〇月〇日）	
	事業評価のための指標	↓リストから選択可能 データ入手方法	↓リストから選択可能 評価方法	評価期間	目標値	評価結果
①アウトカム指標	・ ・ ・ ・					
②アウトプット指標	・ ・ ・ ・					
③プロセスにおける工夫 (事業の実施方法)						
④ストラクチャーにおける工夫 (事業の実施体制)						

※工夫の要素としては、例えば以下のような視点が考えられます。

- ・ 情報提供の方法 (ex. 健診結果の個別フィードバック、研修動画の教材など)
- ・ インセンティブの種類 (ex. 賞賛、健康づくりに関連する物品、社会貢献に資するもの、ポイント等の換金性のあるもの)
- ・ プログラムの魅力 (ex. ゲーム性、仲間要素、動線の設計)
- ・ 外部資源の活用 (ex. 企業、地域の関係機関、大学、医療機関)
- ・ 事業の一部委託 (ex. アプリの管理、データ分析)

ここでは、工夫した要素の成否や、評価結果を踏まえた改善の方針について記載してください。

本テンプレートは、個別事業の優劣を判定するためではなく、事業効果を高めるための工夫を明文化し、各保険者における事業の改善につなげることを目的に示すものである。あわせて、全国での知見を蓄積・抽出し、共有を通じた横展開への活用も期待される。

I. 事業の概要

事業名:

実施主体:

実施期間:

対象者:

事業の目的:
 加入者自身が自らの健康に関心をもち、継続的なウォーキングを通じて自発的に健康づくりに向けた取組を行えるよう働きかけを行う。各個人が健康的に働き続けられることで、事業者側にとっても生産性の向上や従業員満足度の向上につながる。

※健保であればコラボヘルス・ウェルビーイング経営、市町村国保であれば地域づくり・地域貢献などの多様な観点も含め、他部署・関係者等と協働しながら事業設計できるとよいでしょう。また、生活習慣病の予防の観点だけでなく、ライフステージに着目した健康支援、性差に応じた健康課題への対応、高齢者における介護予防や自立支援などの観点で個人インセンティブの取組を活用することも考えられます。

インセンティブの目的・内容:
【第0段階】ヘルスリテラシーの形成 (基盤整備)
 ・全加入者に対して健康づくりの重要性と事業周知のためのeラーニングを配信

【第1段階】参加のきっかけづくり
 ・健康ポイントアプリに登録 → 〇ポイント提供
 ・アプリ上で目標体重を設定してウォーキングチャレンジに参加 → 〇ポイント提供

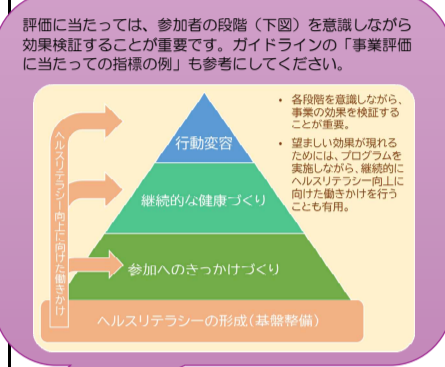
【第2段階】継続的な健康づくり (行動の定着)
 ・アプリで毎日の体重を記録 → 〇ポイント提供
 ・1日の歩数が一定基準以上 → △歩達成で〇ポイント、さらに△歩以上達成で社食の健康メニューの割引券を提供

【第3段階】行動変容 (健康指標に係る成果)
 ・△か月以内に目標体重を達成または維持 → 〇ポイント提供、健診結果とも運動させた専門家からのフィードバックを表彰状として提供

対象者の健康に対する効果とともに、例えば、町づくり、地域の活性化、ウェルビーイング経営といった多様な観点から、保険者にとって意義のある事業となるとよいでしょう。

対象者の段階に応じてインセンティブを設定します。ひとつの事業の中で必ずしもすべての段階に対して働きかけを行うわけではない場合は、該当部分のみ記載してください。

事業実施にあたって前提となる対象者のヘルスリテラシーの状況を確認することに加え、プログラムを実施しながら継続的にヘルスリテラシー向上に向けた働きかけを行うことも有用で



結果が現れるまでに時間がかかる指標もあること、測定自体にも一定の負担がある指標もあることから、指標によって適した評価期間を設定することが望めます。

医療費等の社会保障費の分析や、非参加者との比較分析には一定のハードルもあることから、大学等の研究機関や外部機関と協働して効果検証することも考えられます。

※事業設計時に評価方法もあらかじめ検討。

II. 事業の評価方法

事業評価のための指標	データ入手方法	評価方法	評価期間	目標値
①アウトカム指標 ・加入者全体の医療費 ・参加者の健診情報 ・参加者の満足度、仕事への影響	↓リストから選択可能 保険者が保有する既存データ 特定健診等の結果 アンケート調査	↓リストから選択可能 前後比較 コントロール群との比較 その他	3年間 1年間 1年間	〇年度から〇%減 非参加者に比べて参加者の方が、前年度からの改善者割合が高い 生活や仕事への満足度〇%以上、ストレスチェックの維持・改善〇%以上
②アウトプット指標 ・参加率 ・参加者の体重 ・参加者の歩数 ・参加者の歩数目標達成度 ・事業の周知度	↓リストから選択可能 アプリ上の記録 アプリ上の記録 アプリ上の記録 アンケート調査	経時的変化 前後比較 経時的変化 経時的変化 前後比較	1か月 3か月 3か月 3か月 6か月	加入者の〇% 〇%以上が〇kg減 〇%以上が毎日〇歩以上 〇%以上が〇か月で達成 本事業の認知度〇%以上
③プロセスにおける工夫 (事業の実施方法)	・アプリに参加していない人にも情報が届くよう、全加入者向けにヘルスリテラシー形成・向上を目的としたeラーニングを配信。 ・事業に関心を持ってもらえるように、アプリ登録時点と、プログラム参加時点と、2段階に分けてインセンティブを設定。 ・アプリでのポイント付与だけでなく、社食の健康メニューの割引券を提供することで、歩数以外の健康づくりに目も向けられるように工夫。			
④ストラクチャーにおける工夫 (事業の実施体制)	・アプリの管理は事業者委託しているが、1か月に1回定例ミーティングの機会を持ち、参加状況の報告をもらいながら、広報の方法やイベントの企画などを協働して検討する。 ・コラボヘルスとして〇〇社と事業を共同運営し、事業評価もともに実施する。			

III. 事業の評価結果 (〇年〇月〇日)

評価結果
初年度のため本年度の結果のみ記録 メタが基準値以上の者が、参加者は〇%減、非参加者は〇%減 参加者アンケートで〇%が満足と回答、ストレスチェックの回答が〇%で維持または改善
〇%がアプリ登録、うち〇%がプログラム参加 〇%が〇kg減、平均は〇kg減 〇%が毎日〇歩以上、平均は〇歩 〇%が〇か月で達成、達成率は〇% 社内アンケートで〇%が知っていると回答
歩数目標の達成率は高いが、平均歩数は推奨される歩数より少なく、体重への効果もあまり見られていない。1か月の合計歩数をランキングし、社内10位までを表彰・賞品を提供することとしてゲーム性を高めてみてはどうか。
事業運営は当初の予定どおり円滑に行っている。参加者が徐々に増加しているため、事業者への委託範囲を含めて来年度の運営体制について要検討。

※工夫の要素としては、例えば以下のような視点が考えられます。
 ・情報提供の方法 (ex. 健診結果の個別フィードバック、研修動画の教材など)
 ・インセンティブの種類 (ex. 賞状、健康づくりに関連する物品、社会貢献に資するもの、ポイント等の換金性のあるもの)
 ・プログラムの魅力 (ex. ゲーム性、仲間要素、動線の設計)
 ・外部資源の活用 (ex. 企業、地域の関係機関、大学、医療機関)
 ・事業の一部委託 (ex. アプリの管理、データ分析)

評価結果を踏まえて事業の実施方法や実施体制で工夫できる点を検討しましょう。工夫の要素は左記の注釈や、ガイドライン・事例集を参照ください。

↑ここには、工夫した要素の成否や、評価結果を踏まえた改善の方針について記載してください。